

『獨協大学外国語教育研究所紀要』第8号の刊行によせて

外国語教育研究所長

柿沼 義孝

『獨協大学外国語教育研究所紀要』第8号をお届けします。

「高大連携」「複言語主義」を掲げて出発した「新・外国語教育研究所」も9年目を迎えた。この間、本研究所は高等学校との連携・接続、小学校の英語教育、文学と外国語教育など、外国語教育と関わる種々のテーマに携わってきた。

また現在の外国語教育の周辺を見回してみると、キーワードとして、言語教育と評価方法、複言語主義のCEFRを主軸として、「学習者中心」、「アクティブラーニング」、「自律学習」、「反転授業」、「共同学習」、「ジグソー法」、LMS、PBL、CLILなど、様々な授業形式や方法論的考察が相次いでいる。そして今後さらに活発な議論がなされると思われるものとして、「外国語学習とAI」があることは周知のとおりである。今後の研究の動向が注目される。

2020年2月には「高等学校外国語教員との懇話会」が開催された。この懇話会は高大連携の一環として外国語教育研究所が例年開催しており、今回で9回を迎えた。今回はテーマを「ICTをめぐる教育実践」として、高等学校と大学の授業においてどのような実践が行われているのかがテーマとして扱われた。このような場面においても、高等学校から大学への連携接続が必要であることが確認されたところである。

『紀要』に目を転じてみれば、外国語教育の現在を捉えるアクチュアルで多様な研究テーマのご寄稿をいただいた。まさに研究所の現況が映し出されているとあってよいだろう。ご寄稿いただいた執筆者の皆様をはじめ、査読をいただいた先生方には心から御礼を申し上げたい。そして同時に今後の外国語教育研究所への一層のお力添えをお願いする次第である。